

蔵王町向山地区の有害鳥獣対策

蔵王町向山地区は水稻を中心にイノシシ被害が拡大している。耕作にも影響が出ており、営農意欲の減退や耕作放棄地の増加が目立つようになってきた。

個人での対策ではなかなか歯止めがきかず、対応に苦慮していた。

そこで、集落による「今後の水田活動を語ろう会」を開催、話し合いを重ねてきた。

対策について町農林観光課に相談し、県大河原地方振興事務所等の指導のもと、2018年6月、「向山上地区鳥獣被害対策協議会」を設立、鳥獣被害対策モデル事業の対象地区にも選定された。

集落点検を実施し、被害の多い農地や耕作放棄地、動物の進入路やえさ場等を確認。同年11月には地域住民25名ほどで延べ4日間かけ、1,666枚、総延長3km超のワイヤーメッシュ防護柵を設置することができた。



柵の増設も計画しており、柵下の草刈り作業、緩衝帯の設置、箱罾の設置のほか、季節設備の点検、改修、効果の検証等も今後進めていく。

町の担当者は、「ここまで事業を進めることができたのは地域住民が力を合わせてきたからこそ。困難も少なからずあったが、協議会会員相互で問題点を共有することで

鳥獣被害に強い集落づくりができた」と話す。